

## 「平成 30 年 7 月豪雨から見る真備地域における水害の歴史と防災意識の課題」

岸本 桃

### 要旨

本研究では平成 30 年 7 月豪雨で甚大な被害に遭った真備地域において、歴史・地形の調査・県市町村の対応・ハザードマップの比較などの観点から被害を増長させた原因を調査した。被害を増長させた原因は第一に、真備は水害・土砂災害の経験が多かったが、年月が経つことで水害の歴史、伝承・碑などの情報が風化し、結果水害に対する備えが無防備になったことが挙げられる。第二に、市・県の対応やハザードマップについて、改善すべき点があったが、住民の避難意識に問題があったことが原因として挙げられる。今後真備では再び水害の歴史は風化することで、防災意識も徐々に低下が懸念され、それを防止する対策を行うべきである。県や市はハード面・ソフト面の両面から考えた防災対策を講じることが今後の課題である。